

分析化学用語辞典

分析化学用語辞典

日本分析化学会編

産業図書

分析化学用語辞典

定価 4500 円

昭和 58 年 10 月 25 日 初 版

編 者 社 団 日 本 分 析 化 学 会
執 行 人

発 行 者 森 田 勝 久

発 行 所 産 業 図 書 株 式 会 社

東京都千代田区原田橋2-11-3

郵便番号 102

電話 東京 (261) 7821 (代)

振替口座 東京 2-2 7 7 2 4 番

©The Japan Society for
Analytical Chemistry 1983

新日本印刷・昇栄社製本

分析化学用語辞典編集委員会

委員長	大八木	義彦
委員	池田	重良
(五十音順)	岩崎	岩次
	江本	栄郎
	黒田	六郎
	鈴木	繁一
	太幡	利章
	辻原	鎮夫
	藤村	義寛
	松沢	義三
	柳吉	森良

ま え が き

日本分析化学会が、創立 10 周年記念事業の一つとして、分析化学用語辞典を編纂し、その初版を世に問うたのは 1965 年秋のことであった。これを作り上げるためにも、分析化学用語委員会は約 150 回の会合をもち、7 年の歳月をかけたのであるが、幾つか未採録の用語分野が残り、更に版を改めて完成しなければならないことは明らかであった。

更に学会としては、論文を読み、書く際に完全な用語辞典が座右に備えられるべきであると確信しており、学会の外からも一層充実した用語辞典の出版を強く要望されたので、用語委員会としては、新しい用語辞典を完成しようとの意気に燃え、審議を重ね、前回の辞典よりすぐれたものを作り上げるために努力を傾注した。

1981 年 8 月に分析化学会理事会の承認を経て、分析化学用語委員会は分析化学用語辞典編集委員会に改組されて最終の詰めに入った。新しい分析化学用語辞典は前回の用語数 3594 に対して、4486 語を集録し、現在の段階における分析化学の各分野を網羅している。前回の用語辞典にあった用語で、古くなったために省いたものもあり、用語の意義・内容については一つ一つ検討して改訂増補を行った。

用語は自然発生的なものであるとは、屢々言われることであるが、それを全く放置して各分野からの新語をそのまま取り入れれば、大きな混乱を招くであろう。本用語辞典はそれに対する一応の整理を行ったのであるから、あとは読者がどのように活用して下さるかにかかっており、日本分析化学会の会員であるとないとを問わず、この新しい辞典を用いて、広く學術の進歩に貢献して頂きたい。

今日まで長年月にわたり倦むことなく熱意と努力とを傾注して下さった用語委員と協力者の方々に、厚い感謝を捧げるとともに、出版にあたられた産業図書株式会社に衷心よりの謝意を表するものである。

1983 年 9 月

社団法人 日本分析化学会
分析化学用語辞典編集委員会

用語の調べ方と本書の利用法

1. 用語の求め方

用語の正しい書き方を調べたいときには、その発音に従ってゴシック体の見出しによって五十音順で引く。英語から対応する用語を求めたいときは、英和対照索引を利用する。

2. 用語の定義、意味、内容の求め方

用語の意味する内容、定義などは、その用語の項を見れば説明がある。この際、各種の符号や記号が用いてあるので、次に一括して示す。

3. 各種の符号

符号は次のように使われている。

【 】 内の語は、専門分野に関する注記を示す。

例 かいきてん 回帰点【はかり】はかりの用語としての「回帰点」を指す。

Kennzahlen【独】外国語が英語以外のものの場合に用いてある。この例ではドイツ語であることを示す。

[] 内の語は誤解の心配がない場合には、省略してもよいことを示す。

例 電[気伝]導度 電導度としてもよいが、伝導度とすると熱の場合などと誤解されるおそれがあるので、電気伝導度とすべきであることを示す。

() その前の語、または、語句の説明を示す。

例 原子番号 21 (Sc)

; 同じ内容の語を2語以上続けて記載する場合、語と語の間に「;」を入れてある。

例 absorbance; extinction

† 使わない語を示す。

例 †てんびん 天びん →はかり

天びん という用語は使わないで「はかり」を使う。

→ 「その項を見よ」という意味である。特に†を付けた見出し語では「使用用語」を→で示してある。

⇒ 「その項を参照せよ」という意味であるが、単に参考のために見るもので、同義語のみでなく、対語、類似語などがあげてある場合もある。

例 きはつ 揮発 ⇒揮発分 ⇒蒸発

その語が分析化学用語として収載してあることを示すので、その項を引けば内容を更によく理解することができる。

4. 各種の記号

文部省学術用語およびJIS用語との関連は、主として次の記号を用いて明らかにしている。

JIS ☐ など四角の枠付の記号は、その「見出しの用語」がそれぞれの部門で用いられ、その部

門の用語集に記載されていることを示す。Ⓐのような丸でかこんだ記号は、特にその「直前に掲げた用語」が、それぞれの部門で用いられ、その用語集にあるが、必ずしも分析化学用語と同意義ではない場合を示している。

これらの記号の前に△を付け、△JISなどとあるのは、その見出しの用語はなんらかのJIS規格に採用されているが、その用語の意味する内容が分析化学用語とは異なっている場合を示す。

Ⓐ, Ⓑ	JIS K 0211-1983	分析化学用語 (基礎部門)
	JIS K 0212-1979	分析化学用語 (光学部門)
	JIS K 0213-1979	分析化学用語 (電気化学部門)
	JIS K 0214-1983	分析化学用語 (クロマトグラフィー部門)
Ⓐ(界)	JIS K 3211-1984	界面活性剤用語
Ⓐ(計)	JIS Z 8103-1978	計測用語
Ⓐ(品)	JIS Z 8101-1981	品質管理用語
Ⓐ(プ)	JIS K 6500-1977	プラスチック用語
Ⓐ	文部省学術用語集	採鉱や金編
Ⓐ	文部省学術用語集	機械工学編
Ⓐ	文部省学術用語集	植物学編
Ⓐ	文部省学術用語集	電気工学編
Ⓐ	文部省学術用語集	動物学編
Ⓐ	文部省学術用語集	数学編
Ⓐ	文部省学術用語集	物理学編
Ⓐ	文部省学術用語集	分光学編
Ⓐ	文部省学術用語集	化学編

注：Ⓐ Ⓐなどでは英語の語尾の er, orなどをカナ書きの長音としないが、本用語はⒶに準じて長音とした。したがってアダプタ Ⓐ Ⓐ, アダプター Ⓐのような場合には、同じ用語とみなしてアダプター Ⓐ Ⓐと記載した。このようにして、Ⓐ (JIS 分析化学用語) の用語と本書の用語とは、その説明まで、ほとんど一致しているものが多いが、これは分析化学用語委員会がⒶの原案を作成したから当然の結果である。

また学術用語、特にその化学編の用語とは、できるだけ一致さすように考えたが、学問の進歩と分析化学という専門分野からの見解によって、変更し、不一致となったものもある。

5. 用語の略記号、慣用的な略記号および SI 単位

用語を原語で記す場合に略記号を用いることが、近年、特にさかんになって来た。これはすべての学問領域についてのみならず、社会生活のあらゆる現象についても全く同様であって、意味が通じさえすれば、なるべく簡略な言い方で済ませたいという気持ちから来るものである。

今回の用語辞典の編纂にあたって、この点で大いに悩まされた。新しく発展して来た部門で特に略記号が多く現われるのは当然だと思われるが、それをそのまま採用すると、異った部門から同じ略記号が、異った意味をもって現われるのである。結局、ある略記号は、同じ部門に携わる仲間うちで意が通じればよいのであるから、今回は略記号の採用を局限し、ごく少数の、各部門で共通に認められている略記号、例えば環境化学の BOD や COD という程度に止めた。し

viii 用語の調べ方と本書の利用法

かし、これらの略記号はどこまでも、一つの了解事項に過ぎない。したがって利用者の各位が、論文を書かれるときには、文中はともかく、標題には少くともこの種の略記号は用いず、正しい用語を記していただきたいと切望するものである。

なお用語の説明中では慣用的な次の記号と SI 単位の記号が用いてある。近年、国際的に SI 単位が利用され、わが国でも、他国に比べればかなり速やかに各方面にとり入れられているので、できるだけ SI 単位の利用をすすめたい。

慣用的な記号

Å	オングストローム 1×10^{-10} cm ;	MeV	10^6 eV
	1/10 mm μ	mg	ミリグラム 1/1,000 g
cm ³	立方センチメートル	ml	ミリリットル 1/1,000 l
C. G. S.	センチメートル(長さ), グラム(重さ), 秒(時間)で示す単位 (centimeter, gramme, second)	mM	1/1,000 M ('モル濃度')
cm	センチメートル 1/100 m	mm	ミリメートル 1/1,000 m
cm ²	平方センチメートル	mmAq	水柱の高さ (mm) (圧力の単位)
cpm	計測数(毎分) counts per minute	mmHg	水銀柱の高さ (mm) (圧力の単位)
cps	計測数(毎秒) counts per second	m μ	ミリマイクロン 1/1,000 μ m ; 1 nm
epm	equivalent per million (ppm をその物質の化学当量で除したものの)	ppb	part per billion 1/10 ⁹
g	グラム	ppm	part per million 1/10 ⁶
keV	1,000 eV	rpm	1 分間の回転数
M	'モル濃度'	μ m	マイクロメートル 1/1,000,000 m
		nm	ナノメートル 1/1,000,000,000 m
		μ A	マイクロアンペア 1/10 ⁶ A
		μ g	マイクログラム 1/1,000,000 g

国際単位系 (SI)

a. 基本単位

量	基本単位		
	名称	記号	定義
長さ	メートル	m	メートルは、クリプトン 86 の原子の単位 $2p_{10}$ と $5d_5$ との間の遷移に対応する光の、真空中における波長の 1,650,763.73 倍に等しい長さである。
質量	キログラム	kg	キログラムは、(質量でも力でもない) 質量の単位であって、それは国際キログラム原器の質量に等しい。
時間	秒	s	秒は、セシウム 133 の原子の基底状態の二つの超微細単位間の遷移に対応する放射の 9,192,613,770 周期の継続時間である。
電流	アンペア	A	アンペアは、真空中に 1メートルの間隔で平行に置かれた、無限に小さい円形断面積を有する無限に長い 2本の直線状導体のそれぞれを流れ、これらの導体の長さ 1メートルごとに 2×10^{-7} ニュートンの力を及ぼし合う不変の電流である。
熱力学温度*	ケルビン	K	ケルビンは、水の三重点の熱力学温度の 1/273.16 である。

量	基本単位		
	名称	記号	定義
物質質量	モル	mol	モルは、0.012 キログラムの炭素 12 の中に存在する原子の数と等しい数の要素粒子**または要素粒子の集合体（組成が明確にされたものに限る）で構成された系の物質質量とし、要素粒子または要素粒子の集合体を特定して使用する。
光度	カンデラ	cd	カンデラは、101,325 パスカルの圧力のもとで白金の凝固点の温度にある完全放射体（黒体）の、1/600,000 平方メートルの平らな表面の垂直方向の光度である。

* d の「セルシウス温度」参照。

** ここでいう要素粒子とは、原子、分子、イオン、電子、その他の粒子をいう。

b. 補助単位

量	補助単位		
	名称	記号	定義
平面角	ラジアン	rad	ラジアンは、円の周上でその半径の長さと同じ長さの弧を切り取る 2 本の半径の間に含まれる平面角である。
立体角	ステラジアン	sr	ステラジアンは、球の中心を頂点とし、その球の半径を 1 辺とする正方形の面積と等しい面積をその球の表面上で切り取る立体角である。

c. 組立単位

量	組立単位		
	名称	記号	
面積	平方メートル	m ²	
体積	立方メートル	m ³	
速度	メートル毎秒	m/s	
加速度	メートル毎秒毎秒	m/s ²	
波数	毎メートル	m ⁻¹	
密度	キログラム毎立方メートル	kg/m ³	
電流密度	アンペア毎平方メートル	A/m ²	
磁界の強さ	アンペア毎メートル	A/m	
(物質量の)濃度	モル毎立方メートル	mol/m ³	
比体積	立方メートル毎キログラム	m ³ /kg	
輝度	カンデラ毎平方メートル	cd/m ²	

d. 固有の名称をもつ組立単位

量	組立単位		基本単位もしくは補助単位による組立方または他の組立単位による組立方
	名称	記号	
周波数	ヘルツ	Hz	1 Hz = 1 s ⁻¹
力	ニュートン	N	1 N = 1 kg · m/s ²
圧力、応力	パスカル	Pa	1 Pa = 1 N/m ²
エネルギー、仕事、熱量	ジュール	J	1 J = 1 N · m
仕事率、工事、動率、電力	ワット	W	1 W = 1 J/s
電荷、電気量	クーロン	C	1 C = 1 A · s

x 用語の調べ方と本書の利用法

量	組立単位		基本単位もしくは補助単位による組立方または他の組立単位による組立方
	名称	記号	
電位, 電位差, 電圧, 起電力	ボルト	V	1V=1J/C
静電容量, キャパシタンス	ファラド	F	1F=1C/V
電気抵抗	オーム	Ω	1 Ω =1V/A
(電気の)コンダクタンス	ジーメンズ	S	1S=1 Ω^{-1}
磁束	ウェーバ	Wb	1Wb=1V \cdot s
磁束密度, 磁気誘導	テスラ	T	1T=1Wb/m ²
インダクタンス	ヘンリー	H	1H=1Wb/A
セルシウス温度	セルシウス度または度	$^{\circ}$ C	*
光束	ルーメン	lm	1lm=1cd \cdot sr
照度	ルクス	lx	1lx=1lm/m ²
放射能**	ベクレル	Bq	1Bq=1s ⁻¹
吸収線量**	グレイ	Gy	1Gy=1J/kg

* セルシウス温度 t は熱力学温度 T と T_0 との差で, $t=T-T_0$. ここに $T_0=273.15$ K

** ISO 1000-1973 にはないが, 第 15 回国際度量衡総会で固有の名称をもつ SI 組立単位として採択された。

e. 接頭語

単位に乘ぜられる倍数	接頭語		単位に乘ぜられる倍数	接頭語	
	名称	記号		名称	記号
10 ¹⁸	エクサ*	E	10 ⁻¹	デシ	d
10 ¹⁵	ペタ*	P	10 ⁻²	センチ	c
10 ¹²	テラ	T	10 ⁻³	ミリ	m
10 ⁹	ギガ	G	10 ⁻⁶	マイクロ	μ
10 ⁶	メガ	M	10 ⁻⁹	ナノ	n
10 ³	キロ	k	10 ⁻¹²	ピコ	p
10 ²	ヘクタ	h	10 ⁻¹⁵	フェムト	f
10	デカ	da	10 ⁻¹⁸	アト	a

* ISO 1000-1973 にはないが, 第 15 回国際度量衡総会で SI 接頭語の表に付け加えることが決定された。

f. SI 単位と併用してよい単位

量	単位の名称	単位記号	定義
時間	分	min	1min=60s
	時	h	1h=60min
	日	d	1d=24h
平面角	度	$^{\circ}$	1 $^{\circ}$ =(π /180)rad
	分	'	1'=(1/60) $^{\circ}$
	秒	''	1''=(1/60)'
体積	リットル	l*	1l=1dm ³
質量	トン	t	1t=10 ³ kg

* リットルの記号は, 立体の l(=ル) であるが, 紛らわしいときには, ltr または litre と書いてもよい。

g. 特殊な分野に限り SI 単位と併用してよい単位

量	単位の名称	単位記号	定 義
エネルギー	電子ボルト	eV	1電子ボルトは、真空中において1ボルトの電位差を横切ることによって電子が得る運動エネルギーである。 (近似的に) $1\text{ eV} = 1.6021892 \times 10^{-19}\text{ J}$
原子質量	原子質量単位	u	1原子質量単位は、核種 ^{12}C の一つの原子の質量の $1/12$ に等しい。 (近似的に) $1\text{ u} = 1.6605655 \times 10^{-27}\text{ kg}$
長 さ	天文単位	AU	$1\text{ AU} = 149,598 \times 10^6\text{ m}$ (天文学系の定数)
	パーセク	pc	1パーセクは、1天文単位が1秒の角を張る距離である。 (近似的に) $1\text{ pc} = 206,265\text{ AU} = 30,857 \times 10^{12}\text{ m}$
流体の圧力	バール*	bar	$1\text{ bar} = 10^5\text{ Pa}$

* 国際度量衡委員会では、この単位を SI と暫定的に併用する単位としている。

6. ギリシャ文字

頭字	小字	読み方*	英文字	頭字	小字	読み方*	英文字		
A	α	Alpha	アルファ	a	N	ν	Nu	ニュー	n
B	β	Beta	ベータ	b	ξ	Xi	クシー	x	
Γ	γ	Gamma	ガンマ	g	O	o	Omicron	オミクロン	o(短)
Δ	δ	Delta	デルタ	d	Π	π	Pi	ピー	p
E	ϵ, ϵ	Epsilon	エプシロン	e(短)	P	ρ	Rho	ロー	r
Z	ζ	Zeta	ゼータ	z	Σ	σ, ς	Sigma	シグマ	s
H	η	Eta	エータ	e(長)	T	τ	Tau	タウ	t
Θ	θ, ϑ	Theta	サータ	th	Υ	υ	Upsilon	ウプシロン	y(u)
I	ι	Iota	イオタ	i	Φ	φ, ϕ	Phi	フィー	ph
K	κ	Kappa	カッパ	k	X	χ	Chi	チー	kh
Λ	λ	Lambda	ラムダ	l	Ψ	ψ	Psi	プシー	ps
M	μ	Mu	ミュー	m	Ω	ω	Omega	オメガ	o(長)

* 読み方はすべて、ギリシャにおける発音による。

目 次

まえがき

用語の調べ方と本書の利用法

本 文	1
付 表	277
付 図	279
英和対照索引	289

あ

†あ い い きょくせん *i-E* 曲線 → 電流-電位曲線

アイ エヌ ティー オー アール INDOR
inter-nuclear double resonance 相互作用
用している二つの核の間に行われる二重共鳴法。

†アイソトープ → 同位体

†アイ ティー きょくせん *i-t* 曲線 → 電流-時間曲線

アイ ひゃくさんじゅういち だいよう ひょうじゅん ^{131}I 代用標準 mock iodine
 ^{131}I の '放射線' 測定のための '代用標準'。
†モックアイオダイン

†アイ ブイ きょくせん *i-V* 曲線 → 電流-電圧曲線

†あお シフト 青—— → ブルーシフト

†あか シフト 赤—— → レッドシフト

アーク こうげん —— 光源 arc source 電極間にアーク放電を行わせて、これを分光学的測定のための '光源' としたもの。 [IIS] ㊦

あくしゅうぶっしつ 悪臭物質 offensive odor substance; malodorous substance; malodorant 人に不快感を与えるような臭気をもった物質。硫黄化合物、窒素化合物、炭化水素に多く存在する。このうち、アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、硫化メチル、トリメチルアミン、アセトアルデヒド、ステレンおよび二硫化メチルの8物質が、法令で規制対象物質として定められている。

アーク スペクトル arc spectrum 'アーク線' が主である 'スペクトル'。 [IIS] ㊦

アーク せん —— 線 arc line アークや 'フレーム' の励起によって、中性原子から放射される 'スペクトル線'。 [IIS] ㊦

アクチニウム けいれつ —— 系列 actinium series ^{237}U に始まり ^{207}Pb に終わる、天然放射性同位体 '壊変系列' の一つ。 ㊦ ㊦

アクチノイド げんそ —— 元素 actinoids 原子番号 90 のアクチニウム Ac から、原子番号 103 のローレンジウム Lr までの元素の総称。アクチニドともいう。 Δ㊦

アクチノメーター【蛍・りん光】 actinometer '光化学反応' を利用して、'放射線' や紫外線の強さを測定する装置。 Δ㊦

アーク パラメーター【光源の回路】 arc parameter '発光分析' 用の '光源' に対して、エネルギーを供給する電源の特性が、アーク的性格をどのくらいもつかを示す値。'スパークパラメーター' と対応し、互いにパーセントで示すことが多い。 → スパークパラメーター

アーク ほうでん —— 放電 arc discharge 気体中で起こる放電現象の一種。2個の電極を対立させ、比較的低電圧で、電流値の大きな電場を与えた場合に起こる。直流アーク放電と交流アーク放電とがある。 †弧光放電 ㊦

†あさんが ちっそ アセチレン フレーム 亜酸化窒素 —— → 酸化二窒素-アセチレンフレーム

あし【はかり】 leg 'はかり' の台板に取

2 あしな

り付けられて、はかりを支える金具。 [JIS]
付図 2・a, b 参照

†あしなが ろうと 足長漏斗 →長脚漏斗

あしねじ【はかり】 thumb screw ‘あし’
の長さを調節するねじ。付図 2・a, b 参照

あしょうさんえん てきてい 亜硝酸塩 滴定
nitrite titration 亜硝酸塩の‘標準 [溶]
液’を使用して行う滴定。

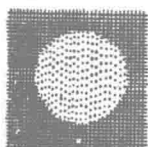
†あしょうさん たい ちっそ 亜硝酸態窒素
→亜硝酸窒素

あしょうさん ちっそ 亜硝酸窒素【水分析】
nitrite nitrogen HNO_2 または NO_2^- と
して存在する窒素をいう。†亜硝酸態窒素

†アスピレーター →水流ポンプ

アスベスト かなあみ ——金網 wire gauze

with asbestos 金網の
中央にアスベストの繊維
を円形に付着させ、バー
ナーの‘じか火’を避けて
加熱できるようにしたもの。
(図) †石棉 (いしわた)
た) 金網



アスベスト
金 網

アスベストろかき ——ろ過器 asbestos
filter アスベストのろ過層を使用するろ
過器。‘グーチるつぼ’、アスベスト‘ろ過
棒’など。†石棉 (いしわた) ろ過器

アセチル か ——価 acetyl value 試料 1g
をけん化して生じる酢酸を、中和するのに
要する、水酸化カリウムの mg 数。†アセ
チル数 [図]

†アセチル すう ——数 →アセチル価

アセンブラ【電算機】 assembler コンピ
ューターが直接読むことのできる言語は 1
と 0 とだけで組み立てられた機械語である
ので、人間が理解しやすい文字記号で表わ

された命令群を機械語に変換するプログラ
ムの一つ。例えば、加法の命令は ADD、
減法は SUB で実行される。

アゾメーター【有機微量分析】 azoto-
meter ; nitrometer

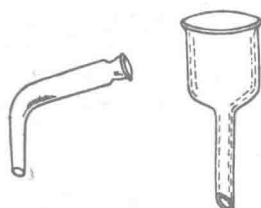
‘デュマ法’において、
窒素ガスの体積を測定
するのに使う器具。
有機化合物の酸化分解
によって生じた二酸化
炭素は、アゾメーター
内のアルカリで吸収
させる。(図) →窒素
計



アゾメーター

アゾメトリー azotometry ‘アゾメー
ター’を使用して、適当な反応で、物質中
から発生した窒素の体積を測定して、窒素
の定量分析の目的を達する分析法。 [図]

アダプター adapter 主として蒸留・ろ過な
どの操作に対して、補助的に使用するガラ
ス器具で、いろいろな形のものがある。
(図) [JIS] [図] [器] [器] [器]



(1) (2)

アダプター

あつぞう 圧像 pressure figure ‘結晶面’
に鈍い針の先きを当てて、垂直に圧力を加
えるときにできる割れ目の形で、その結晶
の対称に相応した形になる。

アッペ くっせつ けい ——屈折計 Abbe
refractometer 液体の‘屈折率’を測定す

る機器の一つ。特に、あめ、ジャム、パルサムなど粘度の高い液体の測定に便利である。'屈折率' 既知の60°プリズムに、試料を接触させ、その界面での臨界面角から直読できる。㊦

あつりょく けい 圧力計 manometer; pressure gauge 気体または液体の圧力を測定する計器の総称。その中でも、低圧の測定に用いるものを真空計、大気圧の測定に用いるものを'気圧計'、圧力差の測定に用いるU字管形のを、圧力差計などと区別して呼ぶことがある。†検圧計 †マノメーター ㊦ ㊦ ㊦

あつりょく こうばい ほせい いんし 圧力勾配補正因子【ガスクロマトグラフィー】 pressure gradient correction factor 'カラム' 内での圧力降下、すなわちキャリアガスの圧縮について補正を行うための係数。次式で定義される。

$$j = 3/2 \cdot \{(P_1/P_0)^2 - 1\} / \{(P_1/P_0)^3 - 1\}$$

ここで P_1, P_0 はそれぞれ分離カラムの入口、出口におけるキャリアガスの圧力。㊦

あつりょく さけい 圧力差計 ⇒ 圧力計

あつりょく による [はばの] ひろがり 圧力による [幅の] 広がりが【スペクトル線】 pressure broadening; collisional broadening '輝線スペクトル' において、励起の場が加圧されるとき、原子が周囲の電子、原子、イオンその他の粒子と衝突または接近することによって生じる、'スペクトル線' の幅(半値幅)の広がりが。

あつりょく ほせい ほじ たいせき 圧力補正保持体積【ガスクロマトグラフィー】 net retention volume; corrected retention volume 'カラム' における圧力降下の'補正'された'保持体積'。未補正保持体積 V_R に'圧力勾配補正因子' j を乗

じ、 $V_R^0 = j \cdot V_R$ で定義される。㊦

アトマイザー → ネブライザー → 噴霧器

アナライザー analyzer 1. 物理・化学的に現われた現象を分析、解析する機構。2. 【質量分析】'質量分析装置'において、イオンの質量分離が行われる部分。⇒ 分析管

アナログ けい — 計 analog-meter 信号が物理的連続量として表わされる計量型の計器。

アナログ しんごう — 信号 analog-signal 連続的な量の大ききで表わした信号。㊦ ⇒ デジタル信号

アニオントロピック ようばい けい — 溶媒系 anionotropic solvosystem イオン授受が、陰イオンによって行われる特徴をもつ溶媒系。

†アニオン → 陰イオン

アネロイド きあつ けい — 気圧計 Aneroid barometer ㊦ ㊦ ⇒ 気圧計

アノディック ストリッピング [ほう] — [法] anodic stripping analysis 目的成分を電解還元により'陰極'上(またはその中)に濃縮し、次にそれを電気化学的酸化により溶出させ、通常は'ポルタンメトリ'により定量する方法。

アノード anode '陽極'。カソードに対して用いられる用語。

アパーチャ aperture 分光光度計や光学機器などの、測定光の大きさを制限するわくの開口。㊦

あひさん てきてい 亜 — 酸滴定 arsenometric titration 三酸化二ヒ素の'標準[溶液]'を使用する'酸化還元滴定'の一種。

アフィニティー クロマトグラフィー affinity chromatography 特異性の高い相互作用を、分離に利用するクロマトグラフィー。

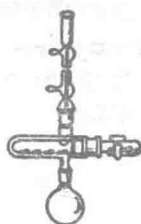
4 アブウ

一方の分子を '保持体' と結合させて不溶性とし、'固定相' として用いる。例えば酵素の基質あるいは阻害剤を高分子に結合させ、'固定相' として酵素を分離精製する。

↑アブウィッシェン Abwischen【独】 →ぬぐい操作

アブデルハルデン かんそ
うき — 乾燥器

Abderhalden's dryer
減圧定温の条件下で、試料の乾燥に用いられる。ガラス製 '乾燥器' の一種。'乾燥剤' としては、普通、五酸化二リン (P_2O_5) などを用いる。



アブデルハルデン乾燥器

アブデルハルデン シュミットのはんのう — の反応 → ニンヒドリン反応

アブデルハルデンのはんのう — の反応 → ニンヒドリン反応

アプリケーター applicator '薄層クロマトグラフィー' で薄層を作る器具。↑スプレッター

アポダイゼーション apodization 干渉図形に、光路差に従って減少する関数を乗じて、分光装置の装置関数に起因する振動を除去する手法。

アポダイゼーション かんすう — 関数
apodization function 'アポダイゼーション' に用いる関数。例えば $|A(x)| = 1 - \frac{x}{x_m}$
 $A(x) = 0 - |x|/2x_m$ 。ただし x は光路差、 x_m は最大光路差。

アマルガム amalgam 一般に金属が水銀に溶けたもの。金属と水銀との量の比により液体から固体まで変化する。Ⓔ

アマルガム かんげんき — 還元器 amalgam reductor 'アマルガム' (固体状また

は液体状) を使用して、試料を還元する器具の総称。

↑アマルガム てきか でんきょく — 滴下電極 → 滴下アマルガム電極

アマルガム でんきょく — 電極 amalgam electrode 材質がアマルガムである電極。Ⓔ

アミド amide 1. アンモニアの水素を酸基 (アシル基) で置換したもので、例えば $R \cdot CO \cdot NH_2$ のような化合物。酸アミドに同じ。2. 金属のアミド。アンモニアの水素原子の一つが金属原子で置き換わった化合物の総称。Ⓔ

↑アミド たい ちっそ — 態窒素 → アミド窒素

アミド ちっそ — 窒素 amide nitrogen タンパク質の構成アミノ酸の、酸アミドとして存在する窒素。↑アミド態窒素

↑アミノ たい ちっそ — 態窒素 アミノ窒素

アミノ ちっそ — 窒素 amino nitrogen アミノ酸における遊離アミノ基として存在する窒素。↑アミノ態窒素

↑アミノ まったん — 末端 → N末端

あみ ふるい 網ふるい net sieve 網目を利用した 'ふるい'。Ⓔ

あやまり 誤り mistake 測定者が気づかずにおかしたまちがい、またはその結果、得られた測定値。↑まちがい。Ⓔ

↑あらい や 洗い矢 → ブラシ

↑アラランダム るつぽ → アルミナるつぽ

アリコート aliquot 1. 試料全体に対する割合がわかっている部分に、分け取ったもの。もともとは、分割、フラクション (分画)、部分などを意味する言葉。2. '検査

線'などを作る場合、段階的に濃度を変化させて作った、一群の系列。[IS] [E]

アリンかん — 管 Allihn filter tube

還元糖を 'フェーリング液' で定量するとき、生成した酸化銅 (I) の沈殿を '減圧濾過' してとり、乾燥し、重量を測定するのに用いる。Allihn が考案したガラス器具。



†アリン コンデンサー — 球管冷却器

アール アール [ち] R_r [値] '円形クロマトグラフィー' によって求められた ' R_f ' の値。

アール エックス [ち] R_x [値] '円形クロマトグラフィー' などにおいて、展開による '移動比' の差を数値化するために、次のように定義された値。 $R_x = (\text{試料の } R_f) / (\text{標準物質の } R_f) = [\text{原点から試料のスポットまでの距離}] / [\text{原点から標準物質のスポットまでの距離 (同一条件で)}]$ R_x の X のところには標準物質の名称を付ける。例えば、 R_{glucose} と表わす (R_G とは書かない)。[IS]

アール エッチ rH 酸化還元電位を、水素ガスの圧力、水素イオン濃度などを考慮に入れて定量的に表わす指数。 $rH = -\log [H_2]$ ただし、 $[H_2]$ は水素の濃度で、気圧単位で表わす。

アール エフ [ち] R_f [値] '移動比' の表わし方の一種。円形または '薄層クロマトグラフィー' など、展開による 'スポット' の移動比を数値化するために、次のように定義された値、 $R_f = (\text{原点から 'スポット' までの距離}) / (\text{原点から '展開前線' までの距離})$ [IS]

アール エム [ち] R_M [値] '円形クロマトグラフィー' などで、展開による特定物質の '移動比' と、構造とを関係づけるために、次のように定義された値。

$$R_M = \log_{10}[(1/R_f) - 1]$$

この値は、それぞれの特定物質に含まれる原子団の、固有 ' ΔR_M ' の値の、代数和に近い値を示す。

アルカリ alkali 水に溶解して水酸化物イオン OH^- を増加させる物質をいうので塩基と同じ 古くから灰を指したが、現在では主としてナトリウム、カリウムなどのアルカリ金属およびカルシウム、バリウムなどのアルカリ土金属ならびにアンモニウムなどの酸化物、水酸化物、炭酸塩その他、水に溶けてアルカリ性を示す物質の総称である。アルカリ性の強・弱を示す語として強アルカリ、弱アルカリという。

アルカリ ござ — 誤差 [pH] alkaline error 'pH' を測定する際に、アルカリ側で起こる '誤差'。

アルカリ しょうひりょう — 消費量 【水分析】 水に溶けて酸性を示している物質を所定の pH まで中和するに要する 'アルカリ' の量。mg 当量/l で表わすか、mgCaCO₃/l で表わす。アルカリとしては、水酸化ナトリウムを使用する。pH 8.3 になるまでのアルカリ消費量をアルカリ消費量 (pH 8.3)、pH 4.8 になるまでのアルカリ消費量をアルカリ消費量 (pH 4.8) という。また、シュウ酸カリウムを加えた後のアルカリ消費量は、強酸に相当し、終点は滴定曲線から求める。これをアルカリ消費量 (遊離酸) という。なおアルカリ消費量を酸度、アルカリ消費量 (pH 8.3) を全酸度、アルカリ消費量 (pH 4.8) を鉍酸度ということもある。†酸度 [IS]

アルカリ せい — 性 alkaline character